

莊園探訪

「中世日根荘の風景」

旅引付と二枚の絵図が伝えるまち

たひきつ

えす

ひのしょう



もっと素敵に
人と文化が交わる
国際都市「泉佐野」



ようこそ!泉佐野市へ

大阪湾と和泉山脈に挟まれ、美しい自然と、関西国際空港という国際的な交通の要地を併せ持つ地域。和泉山系の豊富な水を活かした産業が盛んで、水なすや泉州玉ねぎ、地酒などが特産。また、日本のタオル産業発祥の地であり、泉州タオルは品質の高さから全国シェア4割を誇ります。市内には大きな漁港もあってガッチョや泉ダコ、ワタリガニなどの水揚げ量も府内最大級です。

泉佐野市内までのアクセス

《車でお越しの方》

- 高速道路利用
 - ・阪神高速湾岸線:泉佐野北出口もしくは泉佐野南出口
 - ・阪和自動車道:泉佐野ジャンクションより市街地方面へもしくは上之郷出口

《電車でお越しの方》

- 大阪方面から
 - ・JR大阪駅から日根野駅まで快速で約54分
 - ・JR天王寺駅から日根野駅まで快速で約37分
 - ・南海なんば駅から南海泉佐野駅まで各種急行で約38分

□和歌山方面から

- ・南海和歌山市駅から泉佐野駅まで特急・急行で約27分
- ・JR和歌山駅から日根野駅まで快速で約23分

□関西国際空港から

- ・関西空港(南海空港線利用)から泉佐野駅まで約8分
- ・関西空港(JR利用)から日根野駅まで約13分

時空を超えた日本遺産 日根荘

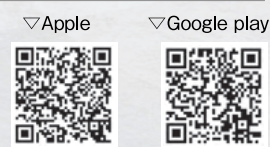


中世の貴族・九条家の領地だった「日根荘」。二枚の荘園絵図と九条政基が書いた日記「旅引付」には、当時の人々の暮らしが生き生きと記されています。そんな中世から受け継がれる文化や景観が今も残り、令和元年(2019年)5月20日に「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」として日本遺産に認定されました。

【QRコードを読み込んで日本遺産の情報をゲット!】

■「変わらない風景～日本遺産・日根荘」アプリ

日根荘めぐり専用アプリで日根荘をめぐってみませんか。



■日本遺産ポータルサイト

日本遺産(Japan Heritage)に関する情報を掲載したポータルサイトです。



■YouTube日根荘チャンネル

ドラクンドラゴン塚地武雅さんと人気声優の河西健吾さんと五十嵐裕美さんが、中世日根荘の足跡を辿ります。



発行 :日本遺産日根荘推進協議会(事務局:泉佐野市教育委員会 文化財保護課)TEL.072-447-6766

犬鳴川に沿って溪谷をゆるやかに登っていくと、日根荘の構成文化財のひとつ「犬鳴山七宝瀧寺」が見えてきます。ここではさおりんも初めての「護摩祈祷」を体験。燃え上がる炎の前に、自身の煩惱を焼き尽くす儀式。厳粛で力強い雰囲気の中、ご本尊に手を合わせ、世界の安寧と無病息災を祈ります。



日根荘×バイク

〈さおりんと日本遺産ツーリング〉



犬鳴山温泉エリア



犬鳴山温泉街。さおりんも法事など親族の集まりでたびたびお世話になっているという観光旅館「み奈美亭」。



こちらも犬鳴山のふもとに軒を連ねる「不動口館」。女子会や女子旅のスポットとしても人気で、選べる可愛い浴衣や露天風呂付きの客室、地産食材を使った料理などでもてなしてくれます。

今なお、山間盆地の地形を生かした農業が営まれている日根荘大木の農村景観。連なる田んぼの間を、さおりんの愛車・ヤマハYZF-R25が駆け抜けます。ピンクの車体に美しく映える黄金色の田んぼ。長福寺跡を望む高台から、懐かしい大木の風景を眺めます。



■Profile

奥沙織さん Saori Oku

現役の看護師であり公認心理師として勤務しながら、バイクタレントとして、オートバイ情報番組ライクアウインドなどに出演。「バイクは私のアイデンティティ」と、フルカスタムしたヤマハYZF-R25を相棒に全国を駆け巡っています。「大好きな地元をバイクと一緒に紹介するのが夢でした。泉佐野市はライダーが集まるバイクの聖地・マーブルビーチのすぐ近くで、日本遺産にも登録される素晴らしい景色や文化がいっぱい。温泉もグルメも充実で大満足のツーリングが楽しめます」。

Instagram:saostagraming



泉州地方の古社のひとつで構成文化財の「蟻通神社」。ずらりと灯籠が並ぶ参道は、今でも子どもたちの遊び場所。



街中で何気なく通っていた「船岡山」も、日根荘の構成文化財。「地元だけど新たな発見に出会えます」とさおりん。



蔵 Moto Cafe

☎ 072-468-0850
📍 大阪府泉佐野市日根野3173
🕒 土・日・祝日の10:00～16:00

※フリー整備スペースのほか、ヘルメット&備品置き場等を完備



あふれる地元愛とバイク愛
次世代に受け継ぐ景観と文化

看護師としてのプロフェッショナルな一面と、バイク女子としての情熱的な一面を併せ持つ「さおりん」と奥沙織さんは、泉佐野市上之郷のご出身。そんなさおりんにとって日本遺産「日根荘」は、子どもの頃から慣れ親しんだルーツともいうべき場所。荘園時代から農村として今も息づく大木地区のほか、構成文化財の犬鳴山七宝瀧寺がある犬鳴山溪谷、さらに日根荘全体の鎮守でもある日根神社など、日根荘に関連するすべてのスポットに、毎日のように友達と遊び・学んだ思い出がいっぱい詰まっていると言います。

そんな大好きな地元を、相棒でもある愛車のヤマハYZF-R25でツーリング。ピンク・黒・ゴールドのこだわりカラーでフルカスタムしたバイクが、地域の人たちが守り続けてきた景観と文化の中を駆け抜けます。立ち寄る場所では、近所のおばあちゃんやご店主にご挨拶。ローカルトークに大いに盛り上がり、しゃべって笑って世代を超えた交流も自然と受け継がれています。





政基公旅引付(原本:宮内庁書陵部所蔵・歴史館いずみさの発行図録より転載)

政基公旅引付

莊園経営のリアルが見える日記

九条家の当主であった九条政基が、日根莊で暮らした際に記した日記。時代は武士によって莊園経営が危うくなり始めた戦国時代で、長福寺に滞在した文亀元年(1501年)からの4年間で記されています。火走神社の雨乞いの儀式や日根神社の例祭、軍勢襲来の様子など、村人の暮らしから経営の実態まで、残された日記から莊園に生きた人々の軌跡が見えてきます。



二枚の莊園絵図

開発の様子を克明に描いた絵図

日根莊が成立した文暦元年(1234年)、莊園経営の一番の難題は広大な未開拓の土地でした。そこで九条家は、延慶2年(1309年)に土地調査に着手。その際に作成されたのが、この二枚の莊園絵図です。当時の莊園の開発の様子を克明に描いた貴重な資料で、村の水路やため池、寺社など、現在と比較することで中世の莊園の姿をより深く理解することができます。



和泉国日根莊日根野村・井原村荒野開発絵図(原本:宮内庁書陵部所蔵・歴史館いずみさの発行図録より転載)



和泉国日根莊日根野村荒野開発絵図(原本:宮内庁書陵部所蔵・歴史館いずみさの発行図録より転載)

ちょうふくじあと

長福寺跡

[DATA]
大阪府泉佐野市大木1223他

莊園経営の中核で領主の居所跡を活用

九条政基の住まいとなった寺院であり、莊園経営を行った政所の跡地。発掘調査で大量の瓦や建物跡、園池、井戸など寺院跡が確認され、平成17年(2005年)に史跡として追加指定されました。目印は杉皮葺きのタマネギ小屋。史跡の維持管理と周辺景観との調和を目指した野外展示として、かつて大木地区で多く見られた杉皮葺きの作業小屋が復元されています。

ローカルトピックス

日根莊×むか新

地元への愛着と地産地消の取り組み

泉佐野市に本店を構える老舗菓子店「むか新」。地元発祥として郷土の歴史を大切に、お菓子と一緒に伝えていくことをコンセプトにしています。そんな中、地産地消推進活動のひとつとして令和元年(2019年)から始まった日根莊での活動。大木地区を拠点に活動している市民団体「みんなのまちづくり隊(現在は「NPO法人Waをつなぐ」)」の協力を得て、むか新を代表する銘菓「いろは蔵」のもなかに使うもち米を日根莊で契約栽培しています。スタッフも田植えや稲刈りに参加。休耕田の棚田を活用し、商品と地元への愛着を深める取り組み。日根莊の素晴らしさを体験込みで全国へ届けます。

[DATA]
むか新 本店
住所／大阪府泉佐野市
上町3丁目11-4
電話／072-464-0100
時間／9:00～18:00
定休日／水曜



大阪府の南部、関西国際空港で知られる泉佐野市には、日本遺産「日根莊」があります。認定されたストーリーは「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根莊の風景―」。一部の地域を除いたほぼ全域全体が対象エリアであり、単一でストーリーが完結する地域型の日本遺産としては府内初の認定となりました。

中でも大木地区に広がる構成文化財「日根莊大木の農村景観」は、中世から受け継がれてきた歴史と自然が織りなす日本の原風景といえるでしょう。かつて泉佐野市は、有力な貴族・九条家の領地であった日根莊の一部で、今なお美しい棚田やため池、水路・集落が調和のとれた景観を形成しています。

その歴史を物語るのが、現存する二枚の莊園絵図と九条政基が書いた日記「旅引付」です。日記には、古くからこの地で暮らしてきた人々の営みがいきいきと記されています。現在の状況と見比べても、その土地利用は昔とほとんど変わらず、800年以上続く歴史の深さがうかがえます。

若葉の芽吹きから収穫時期には黄金色の稲穂と、四季折々の表情を楽しませてくれる農村景観。日常の中に守り継がれた自然が広がり、歴史と文化が人々の生活と深く結びついています。これほどまでに貴重な農村景観は、全国を見渡してもそう多くはありません。



2 人々の暮らしと結びつく神秘的な霊山「犬鳴山」巡り



和泉葛城山の西に位置する「犬鳴山」は、古くから人々に崇められてきた霊山で、日根荘の構成文化財の一つとして知られています。斉明7年（661年）に、修験道の開祖である役行者が開いた「葛城修験」の中心的行場であり、犬鳴山の山号はその昔、大蛇に襲われそうになった獵師を身をていして守った忠犬に、宇多天皇が賞賛を与えたことに由来しています。

現在も山内全体が広大な行場。その山中には真言宗大鳴派の大本山で、日本最古の修験根本道場である「犬鳴山七宝瀧寺」があります。九条政基が領主として日根荘で過ごした日々をつづった日記「旅引付」には、この七宝瀧寺に関する記述が数多く見られます。日記を読み解くと、文亀2年（1502年）8月に和泉下守護の被官であった佐藤久信らの軍勢が上之郷や土丸を攻撃した際、七宝瀧寺の西坊に避難したことや、犬鳴山の寺僧が火走神社などで雨乞いをしたことが書き残されています。

また山と村の繋がりは中世由来のかんがい用水で、構成文化財の「葛葉井の淵」からもうかがい知ることができます。伝承によれば七宝瀧寺の塔の瀧から葛葉を投げ入れたところ、一昼夜のうちにこの淵に流れ出たとのこと。この話は九条政基によって写された文書等にも記録され、暮らしと信仰の結びつきを感じ取ることができます。



いぬ なき さん しっぽうりゅう じ 犬鳴山七宝瀧寺

エネルギーに満ちた清浄の世界へ

今から約1300年前に役行者によって開基された修験道の霊場「犬鳴山七宝瀧寺」。山内には、行者の瀧（行者ヶ瀧）をはじめ犬鳴山溪谷に沿って7つの瀧が流れ、その瀧を金銀などの七宝になぞらえて七宝瀧寺と名付けられました。日根荘の住民たちにとっては信仰の中心であり、荘園の開発にも大きな影響を与えた場所。昔から「女人大峯」とも呼ばれ、今でも男女だけでなく、宗派や国籍も問わず、世界各国から多くの人々を受け入れています。

関西国際空港のお膝元でインバウンドも多い中、密教を正しく伝えるうえで頼りになる僧侶が七宝瀧寺にいます。アメリカ・オハイオ州出身のアレックスさん（僧名康樫）。コロナ禍で自分を見つめ直した時に、仏教の教えや精神に強く惹かれてこの道を志しました。「僧侶としてはようやくスタートラインに立ったばかり。人生の修行はこれからが本番。どんな人からも信頼される僧侶になりたいです」と。日々のお勤めに精を出しながら参拝客を出迎えています。



■ Profile

犬鳴山七宝瀧寺 僧侶 康樫さん

1992年5月生まれ、アメリカ・オハイオ州出身。10年前に来日し、英会話の講師や通訳として活動。コロナ禍で仏教の教えである「諸行無常」を自らに当てはめて強く実感。2021年から2年間、大学の仏教学科で学び、2023年から七宝瀧寺の僧侶としてお勤めしています。

[DATA] 犬鳴山七宝瀧寺
住所／大阪府泉佐野市大木8
電話／072-459-7101
参拝／7:30～16:30



心を新たに精神鍛錬の入り口へ

修験道の修行に同列してみたいという人のために「一日修行体験」を用意。犬鳴山修験者先達の指導のもと、行場や拝所を回峰し、そのあと行者の瀧で瀧修行を行います。

開催日／原則として第3日曜（12月～2月を除く）
参加費／8,000円
申し込み／10日前までの事前予約制
問い合わせ／<https://inunakisan.jp/contact>

ローカルトピックス

旬の味覚を堪能できる温泉宿で豊かな時間

犬鳴山のもう一つの魅力は温泉。緑深い自然に覆われた山麓に「犬鳴山温泉」がこんこんと湧き出ています。そんな中「不動口館」では、渓流のせせらぎをBGMにする露天風呂から、ジビエと地産食材を盛り込んだ料理、露天風呂付のお部屋などタイプ別選べ、滞在時間を豊かにするサービスを提供してくれます。



[DATA]
不動口館
住所／大阪府泉佐野市大木7
電話／072-459-7326
時間／11:00～21:00
（受付は20:00まで）
料金／日帰り大人900円、
子ども450円、2歳未満は無料

自然に抱かれて過ごす贅沢な空間

参道沿いにひっそりと佇む「み奈美亭」。豊かな自然に抱かれた静かなロケーションを大切に、日常を忘れるゆったりとした時間が流れています。自慢の天然温泉は、単純硫黄冷鉱泉。男女ともに露天風呂やうたせ湯を設置。泉州ブランド豚の犬鳴ポークや地元食材を丹念に仕立てた懐石料理でおもてなし。



[DATA]
み奈美亭
住所／大阪府泉佐野市大木2236
電話／072-459-7336
時間／11:00～21:00
（受付は20:00まで）
料金／日帰り大人1,000円、子ども（1歳～12歳）600円、1歳未満は無料

まさに秘湯!?源泉掛け流しの湯

秘湯感がすごいと、温泉マニアが訪れる「山乃湯」。場所は参道から少し離れた府道62号沿い、溪谷に下りる細道の先に入り口があります。源泉掛け流しで、湯はわずかに白濁。湯船に入るとつるつるのお肌になる柔らかいお湯です。



[DATA]
山乃湯
住所／大阪府泉佐野市大木2234
電話／072-459-7515
時間／10:00～18:00
料金／日帰り大人775円
小学生以下（0歳含む）300円



3 莊嚴な寺社仏閣が重なり合う莊園絵図の世界へ



ひばしりじんじや
火走神社本殿

瀧宮と呼ばれた入山田村の総社

元和8年(1622年)の建立。日根荘入山田村の総社で、中世には“瀧宮”と呼ばれていました。「旅引付」には風流念仏や雨乞いがここで行われたと記されており、村の中心的な神社であったことがうかがえます。拝殿の中央部に構成文化財である本殿があり、正面の頭貫を飾る木鼻や妻面の彫刻は、早くからこの地域に多く見られ、当時の大工や彩色師の優秀さを示しています。



火走神社おひたぎ(ホタキ神事)
毎年11月頃に開催。恵みの雨は生業である農業には欠かせないもの。旅引付に記される収穫感謝や厄除けを祈願する神事が、現在も継承され続けています。

火走神社
[DATA]
住所／大阪府泉佐野市大木1534



ありとおしじんじや
蟻通神社

故事が伝わる長滝村の総社
莊園絵図には“穴通神社”として描かれており、熊野詣や紀貫之の故事が伝わる長滝村の総社。当初は熊野街道沿いにあり、第二次世界大戦下の飛行場建設に伴って現在地に移転。古くから舞殿で能が行われ、今に継承されています。



[DATA]
蟻通神社
住所／大阪府泉佐野市長滝814
電話／072-465-0897



ひねじんじや
日根神社本殿

日根造の祖先を祀る莊園の中核

和泉五社の一つで、全国の神社一覧「延喜式神名帳」にも記載されている日根荘の中核をなす神社。中世では“大井関社”と呼ばれ、「旅引付」と二枚の莊園絵図にもその名で登場しています。天正13年(1585年)に豊臣秀吉の紀州攻めの際、戦火に遭い焼亡。慶長7年(1602年)に豊臣秀頼により復興。創建時は、日根造の祖先を祀る神社であったと考えられています。



日根神社まくらまつり
5月4日と5日に催される春季祭礼。泉佐野市の無形民俗文化財に指定されており、5mほどの竹の竿に色とりどりの飾り枕を付けた枕織を背負い、ゆっくり渡御する様子が春の風物詩となっています。

日根神社
[DATA]
住所／大阪府泉佐野市日根野631
電話／072-467-1162



ふなおかやま
船岡山

日根神社との関わりを伝承
莊園絵図では、船岡神社の境内地にある標高25.5mの小高い丘。現在は陸地にある船岡山ですが、古くは海岸線との境にあったといいます。日根神社の御旅所で、戦前までまくらまつりの際は渡御も行われていたことが分かっています。



[DATA]
船岡山
住所／大阪府泉佐野市南中岡本276



じげんいんたほうとう
慈眼院多宝塔

泉佐野市唯一の国宝建築物

天武2年(673年)に開創されたと伝わる天武天皇の勅願寺で、多宝塔は文永8年(1271年)に建立された泉佐野市唯一の国宝。今なお日根神社の神宮寺として、古い姿を残しています。塔内には大日如来坐像(府指定有形文化財)や持国天、多聞天を安置。明治修理の際に現在の場所に移されました。



じげんいんだいにちによらいざぞう
慈眼院大日如来坐像

藤原流の系統を持つ優美な彫刻

多宝塔内に安置される本尊。平安時代末期の制作で、貴族の美意識にかかった彫刻様式。像高約70cm、寄木造の漆箔仕上げ。頭体の奥行が浅く、両肩をはぎ付いているところは平安時代末期の制作技術を表しています。浅い彫りや丸い顔など、藤原彫刻の優美な姿が、平成の修理で再現されました。

[DATA] 住所／大阪府泉佐野市日根野626
電話／072-467-0092



日根荘の魅力は今に伝える構成文化財の数々。現在、泉佐野市唯一の国宝建築物「慈眼院多宝塔」をはじめ、国史跡や重文など33の文化財が登録されています。800年の時を超えて、今も息づく莊園の景観。絵図や日記に残された風景は、現代に残る棚田や水路、そして莊嚴な寺社仏閣と、見事に地図上でも重なり合い、訪れた人を歴史の物語へと誘ってくれます。

鎌倉時代の建立で、日根神社の神宮寺としての古い姿を残す「慈眼院」の多宝塔や金堂、日根荘入山田村の総社「火走神社」など、莊嚴な仏閣建築が点在。さらに日根荘の中核をなす「日根神社」のほか、莊園絵図にも描かれている「蟻通神社」や日根神社との深い関わりが伝えられる「船岡山」など、莊園の重要な役割を担った社寺等が、今も地域を見守っています。

4 中世城郭「土丸・雨山城跡」を歩く



日根荘の宮みと密接な関わりがあるとして構成文化財「日根荘遺跡」の二つに指定された「土丸・雨山城跡」。場所は、泉佐野市土丸の城ノ山と熊取町の雨山の2つに連なるふたごぶの山頂付近。築かれた城郭は荘園の勢力を維持し、周辺の脅威から荘園を守るための要所だったと考えられています。

当時の主要街道であった粉河街道や水間道、大木道などの結節部に位置し、高台からは優れた眺望を確保。戦略的にも重要な立地で、史料によれば日根野盛治、橋本正高、和田正武、山名義理、根来寺などが城に関係していました。さらに調査では、南北朝から戦国期にかけての曲輪や武者隠し、堀切りなどの遺構を確認。長期にわたり、中世を代表する山城として機能したことが分かっています。

現在、土丸城跡は人工的に造成された土塁が木々に覆われ、森の様相を呈しています。いくつかのハイキングコースがあり、土丸城跡へは案内看板が設置された土丸登山口からスタート。初心者にも優しいコースで、休日は城マニアやハイキング愛好家が多く訪れています。歴史ロマンとともに楽しめるのが泉州随一の絶景。閑空から大阪湾まで見通す泉南の町並みと、重要な文化的景観となった大木の集落を一望することができます。

5 現役で未来へ引き継ぐかんがい用水



日根荘の魅力を発信する構成文化財「日根荘遺跡」は、寺社やため池、水路など16カ所。その中で注目は「井川（ゆかわ）用水」です。令和4年（2022年）、オーストラリアで開催された国際かんがい排水委員会（ICID）第73回国際執行理事会において、井川が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

櫻井川から取水する延長約2.75km、高度差約5mの水路で、日根荘の中段段丘面の開発に重要な役割を果たしたと考えられています。約800年前から現存する用水路で現役のものとしては最も古く、わずか5mの高低差を活かしたかんがい施設の開発は、当時の高度な土木技術を示しています。

今も日根野地区の主要な水路で、土丸取水口から流れ出て日根神社と慈眼院の境内の中を通り、大池・尼津池・十二谷池などと連結して見事な水系を形成。広範囲にわたり農地をうるおしています。水路の成立時期には諸説あり、正和5年（1316年）に描かれた村の絵図からはすでに部分的に水路を活用。国内において、現在も利用されている農業用水路で、国の史跡指定を受けているのは井川だけです。暮らしと深く結びついた遺産として後世に残していくために、地域に住む一人ひとりが考えて行動し、未来へと引き継いでいます。

大木まちづくり協議会 守り活用しながら、次代へ

日々の清掃から休耕田を活用した10月のコスモス園まで、国の重要文化的景観に選定された美しい集落を守る「大木まちづくり協議会」。会計の真瀬さんは「大木地区の豊かな自然や町並み、歴史を次の世代へ受け継ぐために、さまざまな活動を行っています」と。安心・安全の基盤を作りつつ、おもてなしの精神で来訪者を出迎えます。



【大木火走神社秋祭りの担いダンジリ行事】
大木地区の鎮守・火走神社で行われる秋季例祭。日根荘の構成文化財の一つで、市指定の無形民俗文化財。だんじりをかつぎ、ぶつけ合うことから「喧嘩まつり」とも呼ばれ、地方色を濃く残す伝統行事となっています。同協議会では、次代の担い手となる子どもたちの育成も行っています。

茅渟宮跡

古代ロマン漂う衣通姫伝説

和歌の神様である衣通姫の故事が伝わる「茅渟宮跡」。伝説では、允恭天皇が皇后の妹姫である衣通姫を愛し、皇后の嫉妬を避けるために設けた離宮とされています。衣通姫はその美貌と才知で知られ、多くの和歌を詠み残したことから、和歌三神の柱に数えられました。九条家文書にも登場し、日根荘の構成文化財に認定されています。



衣通姫に関する情報を発信するとともに、公園の休憩所を兼ねる「衣通姫ガイダンスセンター」。内部には「西のアニメの聖地!〜衣通姫アニメツーリズムと和歌大会〜」で発表された衣通姫のイラストなどが展示されています。

【DATA】住所／大阪府泉佐野市上之郷2750
開館／9:00〜17:00 定休日／火曜、祝日

